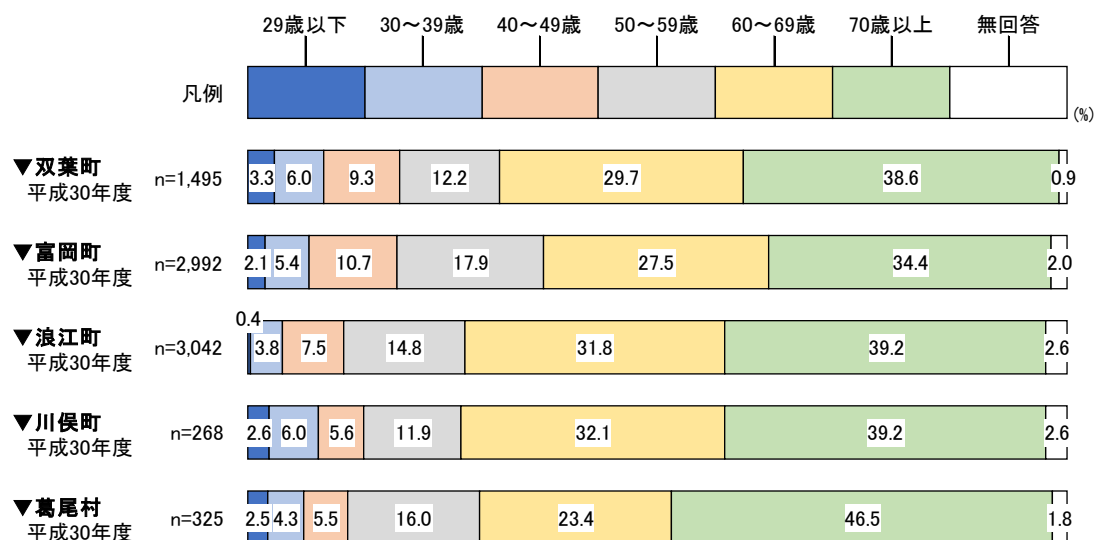


平成30年度 原子力被災自治体における 住民意向調査 調査結果（概要）

調査の概要

1. 調査目的：福島県内の原子力災害による避難住民の早期帰還・定住に向けた環境整備、長期避難者の生活拠点の具体化等のための基礎情報収集を目的に住民意向調査を実施
2. 調査主体：復興庁、福島県、各町村が共同で実施
3. 実施町村：双葉町、富岡町、浪江町、川俣町、葛尾村の5町村
4. 実施時期：平成30年8月20日～平成30年12月3日
5. 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）調査対象は各世帯の代表者
6. 主な調査項目：現在の居住状況、帰還に関する意向、帰還の判断に必要な情報など
7. 回答者の属性（年齢）



調査設計

●調査対象となった各町村の調査実施状況は以下のとおり。

	対象町村	対象地域	記名・ 無記名	対象 世帯数	回答 世帯数	有効 回答率	調査実施期間
1	双葉町	全域	記名	3,115	1,495	48.0%	平成30年10月29日～11月14日
2	富岡町	全域	無記名	6,748	2,992	44.3%	平成30年 8月20日～ 9月 3日
3	浪江町	全域	記名	7,505	3,042	40.5%	平成30年10月 8日～10月22日
4	川俣町	山木屋地区	記名	530	268	50.6%	平成30年11月19日～12月3日
5	葛尾村	野行地区以外	無記名	593	325	54.8%	平成30年10月 5日～10月19日
				18,491	8,122	43.9%	

●調査対象の考え方 ： 上記「対象地域」全世帯の代表者
(分散避難している場合はそれぞれの代表者)

●調査結果（概要）の見方

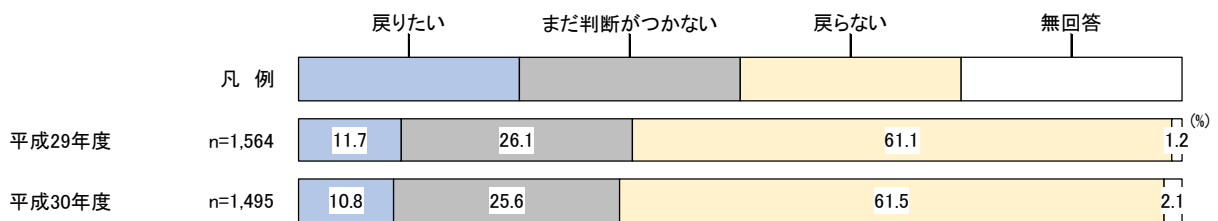
- ・「n」とは、質問に対する回答者数であり、100%が何世帯の回答に相当するかを示すものである。
- ・回答の構成比は百分率をあらわし、小数点第2位を四捨五入して計算しているため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略している場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、すべての選択肢の比率を合計すると100%を超える。

帰還意向

帰還意向

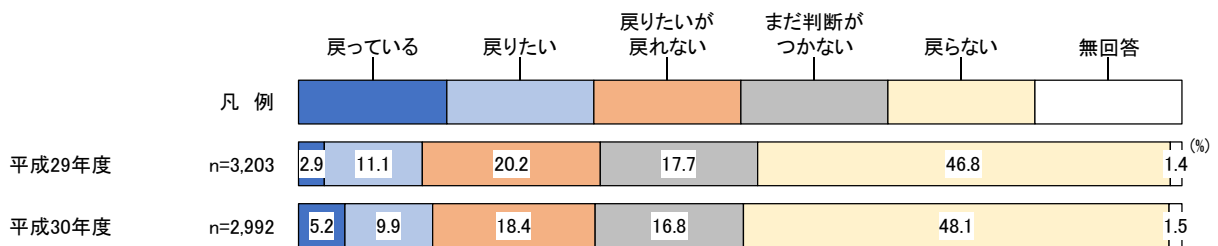
- 富岡町、浪江町、川俣町、葛尾村では、「戻っている」と回答した方の割合が増加している。
- 平成30年度調査の結果によると、双葉町、富岡町、浪江町では「戻らない」と回答した方の割合が5～6割となっている。

<双葉町>



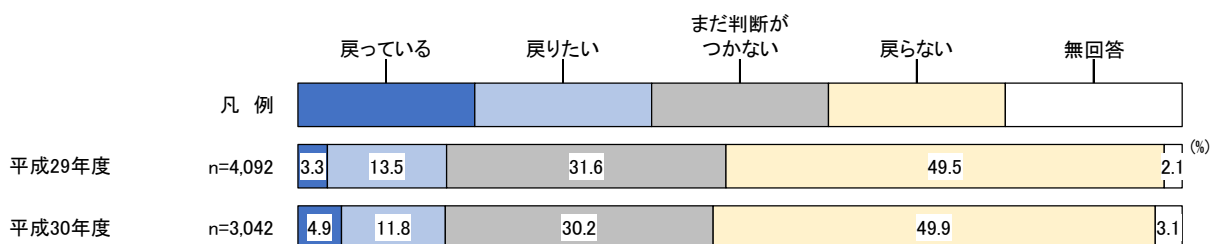
<富岡町>

※平成29年4月1日に避難指示の一部解除



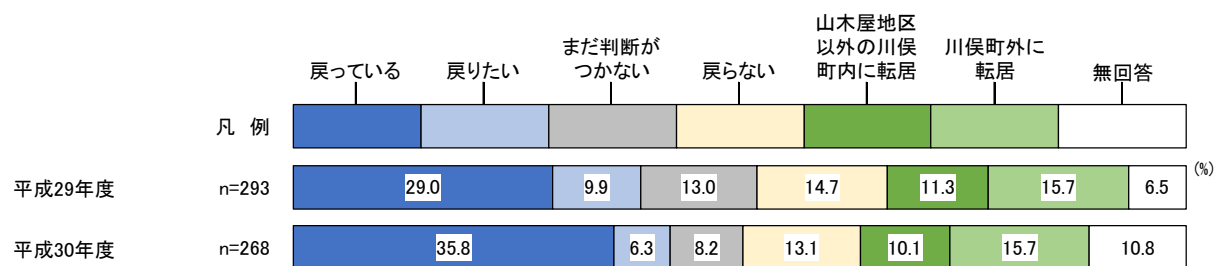
<浪江町>

※平成29年3月31日に避難指示の一部解除



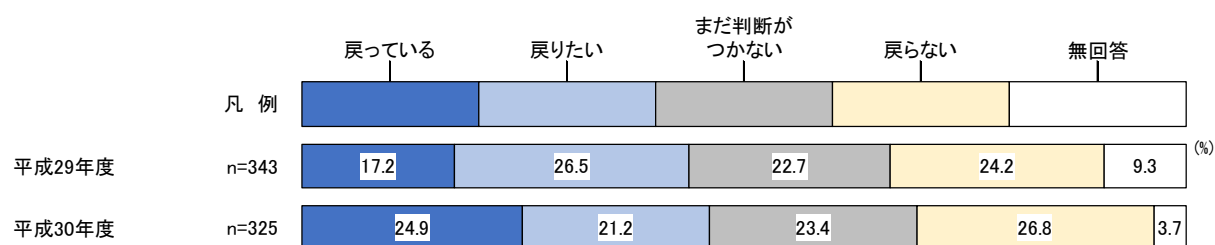
<川俣町>

※平成29年3月31日に避難指示解除



<葛尾村>

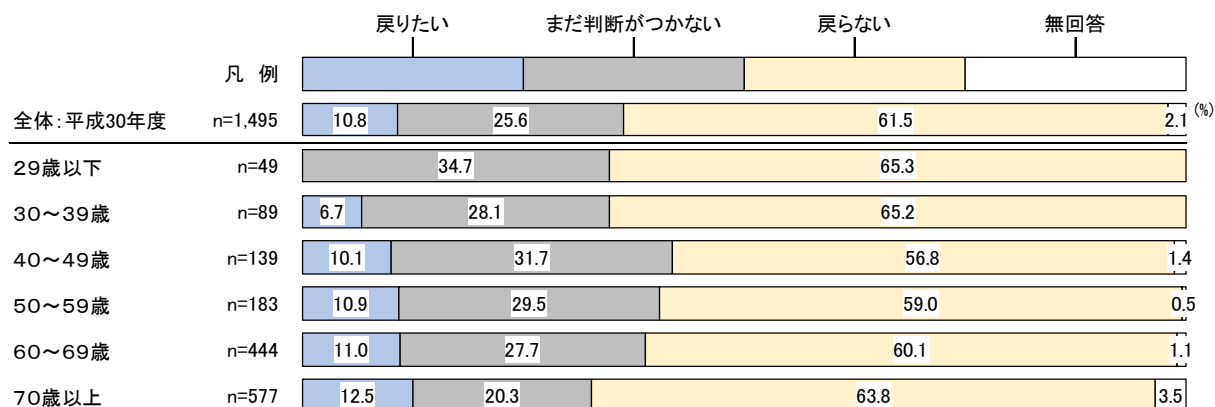
※平成28年6月12日に避難指示の一部解除



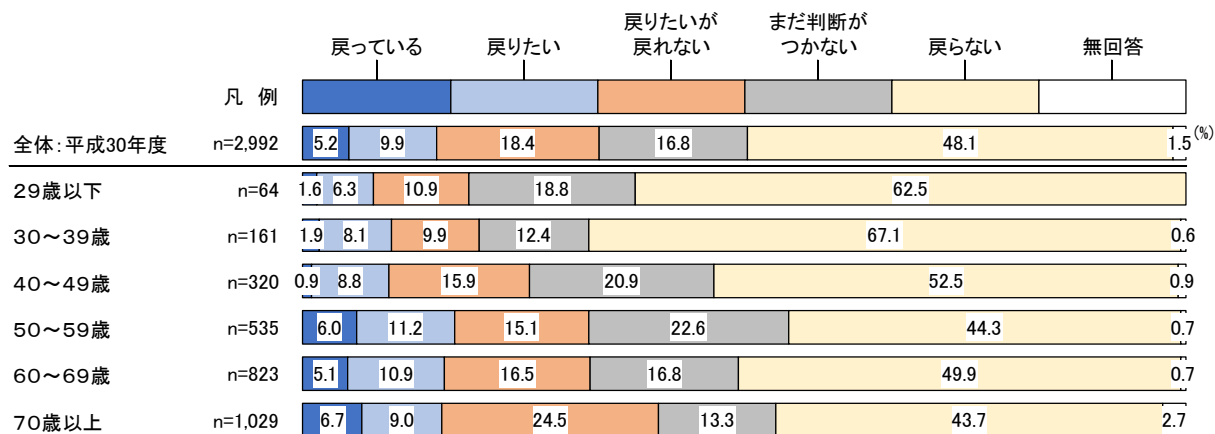
世代別帰還意向

○帰還の意向について世代別でみると、概ね回答者の世代があがるにつれて「戻っている」および「戻りたい」と回答した方の割合が高くなっている。

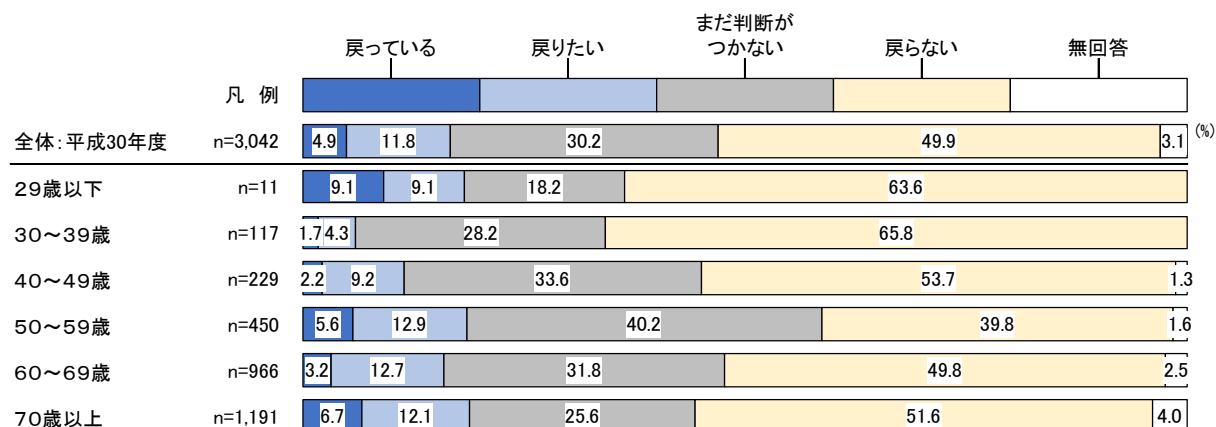
<双葉町>



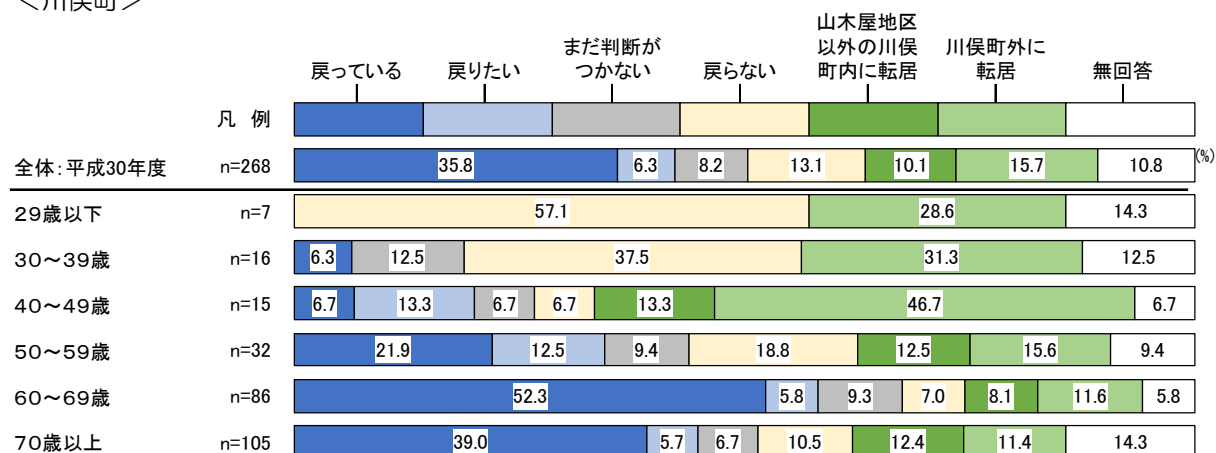
<富岡町>



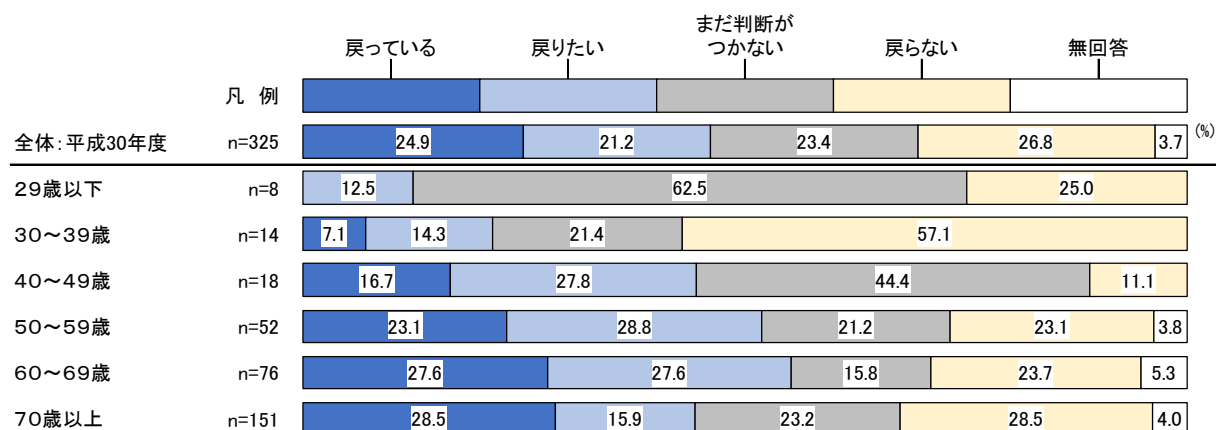
<浪江町>



<川俣町>



<葛尾村>

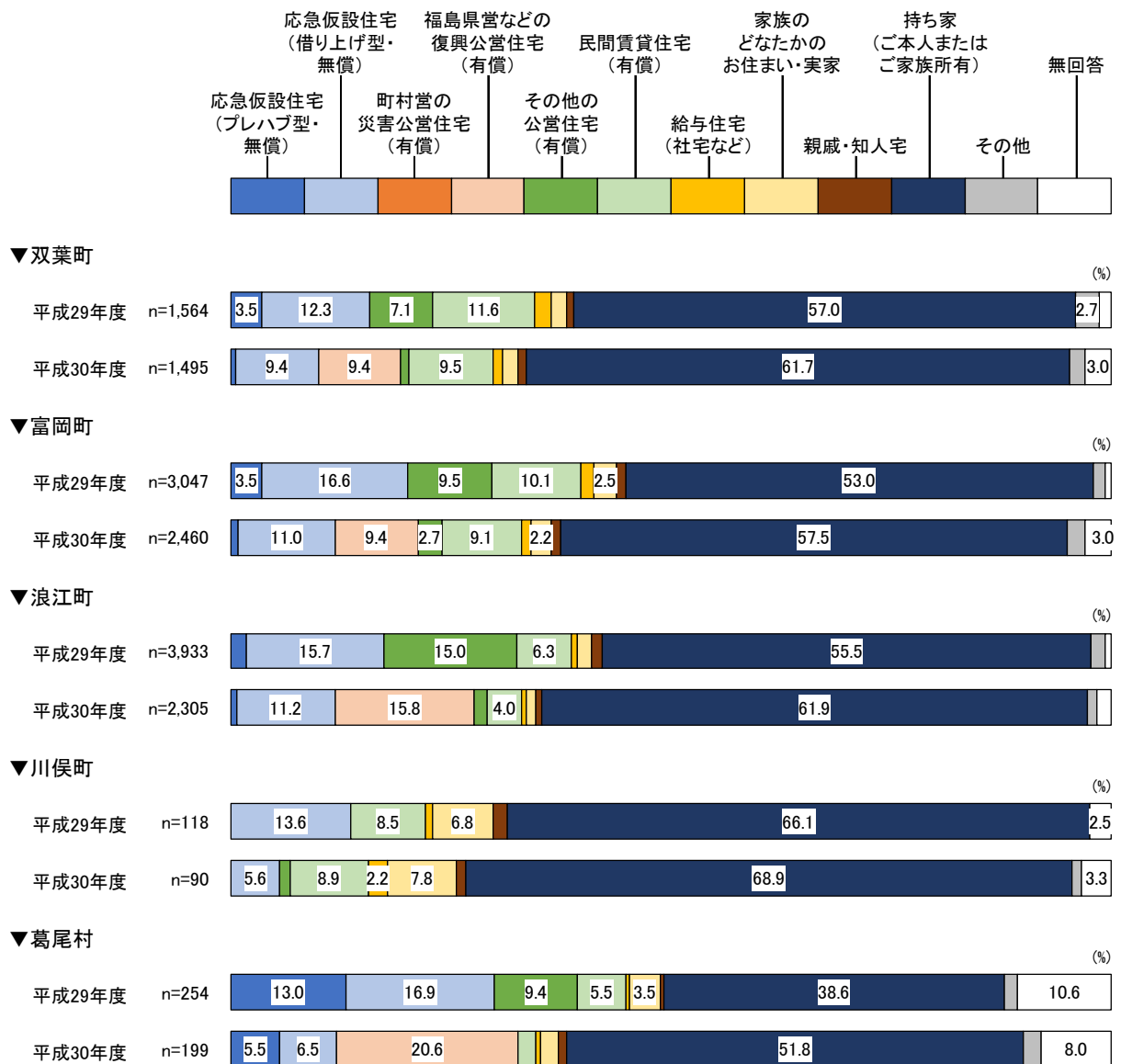


現在の住居形態

○元の自治体に戻っている方以外の現在の住居形態について、「応急仮設住宅（プレハブ型・無償）」または「応急仮設住宅（借り上げ型・無償）」と回答した方の割合は各町村で減少し、1割前後となっている。

○また、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」と回答した方の割合は各町村で増加しており、概ね5～7割の方が持ち家を取得している。

※それぞれ、元の自治体に戻っている方以外の住居形態について整理している。



※川俣町の選択肢「公営住宅」は、上記のグラフでは「その他の公営住宅（有償）」として表示

※葛尾村の選択肢「福島県営・葛尾村営の復興公営住宅（葛尾村外・有償）」は、上記グラフでは「福島県営などの復興公営住宅（有償）」として表示

帰還を判断するために必要な条件

○帰還意向において「まだ判断がつかない」と回答した方が、帰還を判断するために必要な条件として上位にあげたのは、「医療施設」「商業施設」に関する条件や「周囲の住民の帰還状況」となっている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 平成30年度 n=383	医療・介護福祉施設の再開や新設 56.7%	住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援 49.1%	商業施設の再開や新設 29.0%	更なる放射線量の低減 26.1%	どの程度の住民が戻るかの状況 20.1%
富岡町 平成30年度 n=503	医療機関(診療科)の拡充 50.7%	商業施設の充実 39.4%	どの程度の住民が戻るかの状況 39.2%	介護・福祉施設の充実 33.6%	働く場の確保の見通し 30.0%
浪江町 平成30年度 n=920	医療・介護の復旧時期の目途 52.9%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 50.7%	どの程度の住民が戻るかの状況 37.8%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 31.3%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 28.0%
川俣町 平成30年度 n=22	医療機関の充実 50.0%	商業施設の充実 50.0%	鉄道など公共交通機関の充実 40.9%	どの程度の住民が戻るかの状況 40.9%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 36.4%
葛尾村 平成30年度 n=76	避難先の方が、生活利便性が高いから 52.6%	医療環境に不安があるから 51.3%	葛尾村外への移動交通が不便だから 42.1%	原子力発電所の安全性に不安があるから 30.3%	営農などができそうにないから 30.3%

※葛尾村については、「帰還の判断がつかない理由」を使用している。

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 平成29年度 n=408	住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援 38.5%	医療・介護福祉施設の再開や新設 38.2%	商業施設の再開や新設 27.7%	除染対策(被ばく低減対策) 27.0%	賠償額の確定 10.8%
富岡町 平成29年度 n=566	道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の見通し 49.8%	どの程度の住民が戻るかの状況 46.3%	放射線量の低下の見通し、除染成果の状況 42.0%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 35.3%	帰還困難区域内の復旧・復興計画 29.0%
浪江町 平成29年度 n=1,292	医療・介護の復旧時期の目途 60.9%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 51.5%	どの程度の住民が戻るかの状況 40.9%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 33.9%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 33.4%
川俣町 平成29年度 n=38	仮置場撤去の見通しに関する情報 39.5%	どの程度の住民が戻るかの状況 34.2%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 34.2%	道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 31.6%	中間貯蔵施設の情報 28.9%
葛尾村 平成29年度 n=78	どの程度の住民が戻るかの状況 39.7%	道路、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 38.5%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 37.2%	働く場の確保の目途 32.1%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 30.8%

帰還しないと決めている理由

○帰還意向において「戻らない」と回答した方が、帰還しないと決めている理由として上位にあげたのは、「避難先の方が、生活利便性が高いから」「すでに生活基盤ができているから」や「医療環境に不安があるから」となっている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 平成30年度 n=920	避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから 54.5%	医療環境に不安があるから 49.5%	家が汚損・劣化し、住める状況にないから 46.4%	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから 41.6%	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから 40.4%
富岡町 平成30年度 n=1,439	すでに生活基盤ができているから 60.4%	避難先の方が、生活利便性が高いから 40.4%	原子力発電所の安全性に不安があるから 36.2%	医療環境に不安があるから 32.4%	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから 27.4%
浪江町 平成30年度 n=1,519	医療環境に不安があるから 50.1%	すでに生活基盤ができているから 47.8%	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから 42.3%	避難先の方が、生活利便性が高いから 39.2%	原子力発電所の安全性に不安があるから 37.9%
川俣町 平成30年度 n=35	避難先の方が、生活利便性が高いから 54.3%	すでに生活基盤ができているから 54.3%	医療環境に不安があるから 40.0%	介護・福祉サービスに不安があるから 37.1%	放射線量が低下せず不安だから 31.4%
葛尾村 平成30年度 n=87	避難先の方が、生活利便性が高いから 47.1%	医療環境に不安があるから 43.7%	葛尾村外への移動交通が不便だから 39.1%	高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから 34.5%	すでに生活基盤ができているから 33.3%

<（参考）前回調査結果>

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 平成29年度 n=955	避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから 54.6%	家が汚損・劣化し、住める状況にないから 52.3%	医療環境に不安があるから 50.3%	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから 45.2%	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから 43.8%
富岡町 平成29年度 n=1,498	すでに生活基盤ができているから 56.3%	医療環境に不安があるから 44.6%	避難先の方が、生活利便性が高いから 41.7%	原子力発電所の安全性に不安があるから 41.5%	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから 35.8%
浪江町 平成29年度 n=2,025	医療環境に不安があるから 42.6%	原子力発電所の安全性に不安があるから 38.1%	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから 37.6%	避難先の方が生活利便性が高いから 34.7%	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから 34.3%
川俣町 平成29年度 n=43	避難先の方が生活利便性が高いから 48.8%	医療環境に不安があるから 44.2%	山木屋地区外への移動が不便だから 37.2%	放射線量が低下せず不安だから 30.2%	原子力発電所の安全性に不安があるから 30.2%
葛尾村 平成29年度 n=83	避難先に住居を構えたから 49.4%	避難先の方が生活利便性が高いから 45.8%	医療環境に不安があるから 42.2%	高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから 38.6%	葛尾村外への移動交通が不便だから 26.5%